

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 62 号

発行日

2025.10. 30

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○広島（＝岡山）への旅 だが若き日のそれは既になく？

まずは、久々の広島であった！思いも寄らぬ連絡があった、大学学部時代の卒業同期の同窓会に参加したのである！50年振りの再会であったが、私は、彼らとは複雑な関係にあったので（入学は、私の方が一年早かった！）、少々行くことを躊躇したが、世話人のH夫妻の心温まる誘いによって、思い切って顔を出した次第である！よくぞ、誘っていただいたものである！その厚情には、素直に感謝するしかない！

思えば、大学学部時代は、それこそ疾風怒濤の時であった（ただし、その後も、そうであったのだが？笑！中学校の体育教師を目指してH大学教育学部に入ったものの、そして、一応卒業だけはさせてもらったものの、その後は、かなり違った方向に進んだ私であったので、何か罪悪感（否、劣等感？）をもっていたわけである！当時の状況が、私の人生？を大きく変えてしまったことは、今となつては、ただただ懐かしいばかりであるが、そのことは、長い間、心の隅に隠されていた（あまり、他人には話さなかったということである！）。

今回、その鬱屈とした思いは、ほとんど消え去ったようにも思うが、人には、やはり様々なわだかまりがあるものである（青春時代とは、まさにそういうものであろう！）！そんなことを思いながら、翌日は、次の目的地岡山に移動したのであるが（そこでは、高校時代の友人と、古墳／神社巡りを計画していた！）、会の前に、思い出深い南区周辺（皆実町・翠町・宇品神田町／13年間居住していた）を、重たい足を引きずりながら？歩いた！まったく当時の面影はなく（激変！）、残っていた商店街通りで、かの広島風お好み焼きを食べ、往時を思い出してはみたが、さながら、現代の浦島太郎であったかも！！

○パニックややはり、AI時代には落とし穴がある？

さて、いつもの日常であるが、実は、あまり話したくないが（恥ずかしいので）、過日、久々のパニックに陥ってしまった！以前（64号）に書いていたと思うが、現在、生成AI「NotebookLM」を活用して、我がHP上の誌面の充実？を図っているが、それには、ファイル変換ソフトが活用で、たまたま教えてもらった、無料のそれ（これは、「音声解説」の方をダウンロードして重宝がっていたが、欲を出して？「動画解説」の方まで手を伸ばしてしまったのである！）

尤も、その対処法を知らずに、気楽に？利用していた私（高齢者！）が悪いのであるが、後から分かったことは（幸い、三女が迅速に調べてくれた、その落とし穴は、いわゆる「ネット詐欺」の一種であった！高齢者（無知の極み？）の為せる業とは言え、便利と危険は、まさに隣同士というところでもある！問題は、それを変換するソフトが、新たに活用となり、同じように、ネットから無料ソフトをダウンロードして使用していたのであるが、何かの拍子に、突然画面がおかしくなり、緊急事態が発生されたのである（まさに炎上の呈？偽の電話まで掛けさせられた！これが、危なかったのである！）！

とにかく、これには驚き、心臓の鼓動は高まるばかりであった！はるか以前に、大学の研究室のパソコンが、誰かが持ち込んだUSBから感染し、大騒ぎになったことを思い出したが、真に「AI時代」とは恐ろしいものである！便利ではあるが、その隣には、予期せぬ落とし穴があるのである！ただし、被害は、最小限で済んだ！

○プロダクト（コンテンツ）の魅力とは？しかし、その前に？

ところで、先般実施した「教育協働アカデミー」は不覚？であった！オンライン参加はともかく、対面参加者が、ほとんどいなかったのである！中身は良いのに（時宜を得たテーマ！）、何故、参加者が少なかったのか？PRの問題、場所、曜日・時間帯等の問題、要因は少なからずあるが（ある意味「いつも通り」？）、考えさせられることは、改めて幾つかあった（いずれにしても、準備してくれた、メインスピーカーのA君（さん）には申し訳なかった！）！

ここでは、そのすべては書けないが、当日のテーマであった「AI時代の社会教育のヒントー実践者の思いの実現についてー」に関わらせて（＝プロダクト／コンテンツの魅力）、一つだけ、ここに記しておきたいことがある！それは、そこにある「つながりの強度」（思いの共有度と言ってもよい？）のことである！今流行の？「世界線」ということでは、それが、メンバー／参加者間で、どのように交わっているかということである！もし、それが、意味のある関係として十分に交わっていなければ、結局は、呼びかける側の「自己満足」ということにもなるが、みんな、そこそこ忙しいのである！なので、そこを超える何かが必要なのである！！

ただし、それは、ただ、その時に顔を合わせることでではない！言い換えれば、時々の参加／不参加は、どうでもよいのである！要は、その集まり（出会い）に対する、当事者の思いが重要なのである！最低限、参加できない知らせとか、その日のテーマに関するメッセージを送るとか、メンバー間で、それがなされているかどうかなのである！それがなければ、いつまで経っても、一過性の出会いに過ぎないものとなる！だから、現在、HPでの記事も工夫せねばと、鋭意奮闘中であるが、果たしてどうなるのか（そもそも、その意義はあるのかどうかも含めて）！！

ちなみに、ネット上には、それこそ無数の記事・動画等がある！だが、これは物凄く良いものと思えるものであっても、必ずしも、視聴者数（チャンネル登録数）が多いわけではない？見せ方とか、MC？のキャラとかが、おそらく影響しているものと思えるが、つくづく誘う／伝えることの難しさ（もどかしさ）を感じる！ズームは、そのための有効なツールなのであるが…（井上）

○教えられる「人と動物」の関係！否、それ以上？！

またしても、感動的なシーンを見させてもらった！それは、NHKの「さよならレザン再び：全盲のテノール歌手・天野亭が語る盲導犬との絆と新たな相棒フアラド」という番組【時をかけるテレビ：総合・司会 池上彰】／10月10日であったが、「目が見えない世界の中で、人と犬が互いを信じ、支え合いながら歩く姿。その背後には、想像を超える努力と、言葉を越えた信頼の積み重ねがあります」とあつた（2000年に放送されたドキュメンタリー『さよならレザン』を取り上げ、全盲のテノール歌手・天野亭さんと盲導犬レザンの深い絆を再び映し出す別れ、そして新たな出会い）。

天野さんが盲導犬と暮らし始めたのは、1988年。初めてのパートナー・ブレンダとの出会いをきっかけに、人としての生活が始まる。その後、「アンディ」「クラウス」と続く歴代の盲導犬の中でも、レザンは特に長く寄り添った。レザンはラブラドル・レトリバーの雄。落ち着いた性格と高い集中力を持ち、天野さんのステージ活動を何年にもわたって支え続けた。全国各地のコンサート会場に、いつもレザンの姿があつた。ステージのすぐ近くで静かに待機し、観客の拍手にも動じず、天野さんが歌い終えるまでじっとその姿を見守る。音の世界で生きる天野さんにとって、レザンの存在は、もう一つの目であると同時に、「心の支え」でもあつたということである！

「レザンがいないと、不安が消える。声が自由に出る」と語ったことがある。視覚を失つてもなお、音楽で世界とつながるために必要だったのは、ただ安全に歩くための盲導犬ではなく、「心を通わせるパートナー」だった。天野さんと盲導犬レザンの物語を通して、「共生」という言葉の本来の意味を見つめ直す。人間社会では、障害や動物との関係を「支える・支えられる」という構図で語りがちだが、彼らの関係は、もっと深い「相互の尊重」の上に成り立っている（犬が人を導くのではなく、人が犬を信じる。そしてその信頼が、次の一歩を生み出す）。何という関係なのだ！

○予期せぬこと（珍事件？）が続いて起きた？！

こは、私（井上）の担当ではないが、今回は特別となる。実は、表面で書いたが、私は、我が奥さんと一緒に、懐かしき広島、そして、三女が住む岡山にしかけていたのであるが（これに合わせて、千葉に住むY君／高校時代の友人と吉備路を楽しみ、次の日は、三女と一緒に、播州赤穂への一泊旅行もした）、ところが、である！帰沖の瞬間に、驚くべきメールが届いた！三女からのものであつたが、何とも予期せぬ内容であつた！先ほどまで一緒だったのに、直接言えなかつたであろう（父親としては複雑？）！だが、予期せぬことは、帰沖後もあつた！というのも、岡山に住むS君

が、パートナーと一緒に、我が家を訪ねてくることになつて（私達とは逆に、彼らが沖縄訪問！笑、その日が違つていたのである（約束の時間が過ぎても、なかなか現れなかつたので、心配になって電話したのであるが、その日は次の日だった！）！約束は電話でしていたので、日程を勘違いしていたのであるが（何とも情けない話である！、これもまた私にしてみれば、予期せぬ出来事（珍事件？）である！）

・短歌に託して予期せぬことに！これもまた麗し？！
・遠き日の関係 たとえ苦くも尊く！

お陰で また一つ豊かになる？！

・A I時代の落とし穴 無知であれば嵌る

高齢ならば さらに深く嵌る？！

・考えさせられる 我がプロダクト！

支えるものは？ 問われる魅力とは？

・何ということか こんな関係があるなんて！

教えられる以上に そこには何かある？！

・予期せぬ出来事！ 思いも寄らぬ珍事件？

だがそれらは 縁ある者の織りなす綾？！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕622

○突然だが、「こ」で「高天原神話」を探る？！その2

しかるに、先号（61）では、「記紀神話」とりわけ「高天原神話」にある意味「見え見え」の動機と内容構成を示している？！ことを記したが、そこには、途轍もなく複雑な史実が織り込まれていることは事実であらう？！そして、それは、時の政権勢力の「正当性」「正統性」を導く壮大な創作ドラマとも言えるが、その最も大きなシナリオ枠は、おそらく（ある意味必然？）、先代の「天武政権」と、それを受け継いだように見せかけた「持統・藤原政権」の確執と、その勝利のプロセス呈示（実は、先々代の「天智政権」の復権？そして、新政権の誕生？）でもある？！そう、思われないということである？！

というのも、かの「天武」亡き後、その後継は、「胸形（宗像）徳善」の娘「尼子娘（みこぎぬ）」との子の「高市（高市）皇子」であつたようであるが（実際に、彼は「天皇位」についていたようである！その証拠の一つが、子の「長屋王」が「親王」と呼ばれていたことによる！「親王」は、天皇の皇子を指すし、しかし、記紀は、その着座を認めず、持統自らが「天皇位」に着いたことになっている！そして、それが、まさに「天照大神」への昇華を指し示しているわけであるが（彼女の諱が、「大倭根子（おほまねこ）天武野日女（あまのひめ）尊」から「高天原（たかみけ）尊（みかみ）天武野日女（あまのひめ）尊」に変わった）、そうした史実を歪曲（都合のいいように再編成）するために構想されたのが、他ならぬ「伊弉諾（いざな）／伊弉冉（いざなみ）」による「国生み・神生み」の物語だということである？！

その壮大な「国生み・神生み」の物語は、直接「こ」では示すことは出来ないが、その作成動機は、奪い取った「天武」の王統の否定であることは言うまでもない！神話自体のクライマックスは、いわゆる「三貴子」の誕生譚であるが（これについては、次号で記すつもりである）、「天御中主（あまのみなかつぬし）尊（みかみ）天常立（あまのつねたて）尊（みかみ）を天上（高天原）の柱として、「高皇產靈（たかみけのたまひ）神」／「神皇產靈（かみけのたまひ）神」↓「伊弉諾（いざな）／伊弉冉（いざなみ）」↓「天照大神（あまてらすおほみかみ）」／「素戔鳴命（すさなひのみこと）尊（みかみ）瓊瓊杵（にぎはこ）尊（みかみ）／「天國主命（あまのくにのみこと）尊（みかみ）」↓「神武（かみヤマト）尊（みかみ）」へと、双方の勢力が、一つに収斂していくことである？！それが、「持統・藤原政権」の正統性／正当性の主張（根拠）なのである？！（つづく）（堂本）
《編集後記》 やつと暑さが収束？！そして、政治の喧騒も？！各地でクマ被害が多発しているが、我々の生活環境は、想像以上に変わってしまっているということか？！（井上／堂本）